

## 家庭が必要な子に家庭を

S・A

きっかけは、「ついでに育ててみよう」でした。動機としてはあまりに単純だったかもしれませんが、「家庭が必要な子がいるんだ」という事実を知って、なにもせずにいられずに躊躇なく里親になりました。二人の娘達への手も離れて「なにかしてみたい」時でしたから、私の家族と家庭での新しい仕事として社会的意義を充分に感じられました。当時は里親手当など無いに等しいボランティア状態でしたが、家族が増えて新しい風が入り家庭が啓かれる楽しさを予感しました。それが始まりです。

けれど実際の委託はそれから1年半を経て里親の事など忘れかける頃でした。長女よりひとつ年上のT君が委託されました。どちらかという愚痴ばかりを話しまくるT君です。馴れてくるとこのお喋りが元で彼と長女が反目状態になり家庭内紛争が絶え間なく続くようになりました。親戚や近所の口出しにも閉口しながら、里親というより人間の大人として公平な態度や立場を死守する辛さも経験しました。楽しい予感はずっと初日から吹き飛んでため息の連続でした。やがてみんなが限界を抱いた時、運よく渡りに舟のようにT君の本来の家庭状況の変化に伴い委託の解除も実現され、T君は喜び勇んで家に戻りました。

中学3年間は親元でしたが、夏休みには必ず私達の処で過ごし、家族の愚痴やらなにやら喋り尽くし最後に「ここに戻りたい、帰りたくない」と言うのを励ましながら帰りました。愚痴の多くは「お金がない貧乏は嫌」の内容でしたが、親達もそれなりに頑張っているように思えるので励ますことしかできません。けれどもその家族もT君には血のつながりのない家族だったので、T君の苦しみや悲しさや淋しさも分かる気がしてもどかしく思いました。その事情は娘達もそれぞれの成長の中で感じ取っていたようでした。

T君は高校進学を望み家族からも勧められ勉学にも自信をもっていたのに、土壇場で選んだのは住み込み料理屋への就職でした。家族から離れた一念でした。それを決めた時には何度も相談を受け、その都度進学を勧めていましたので驚きましたが本人の強い意志を知り尊重するしかありませんでした。

夏になり突然T君が家出同然で家に来ました。職場が辛くて逃げてきたと言います。中卒と馬鹿にされ主人と先輩から文句ばかり言われて、自分は高校に行くべきだと考え此処でやり直したいのだと言いました。私達はT君に同情しつつも此の儘ではいけないので、一度戻り軽率な行動は謝って職場が必要とする時まで勤めてから退職する順序でと説得しました。彼も渋々応じて私達も付添って職場へ帰りました。職場には職場の見方考え方があってT君は厳しく批判を受けました。理解を得る状態には思えず心配は募りました。案の定「耐えられない」と訴える日が多くなり、私達夫婦も覚悟を決めました。授業料と生活だけなら何とかなるから此処に戻るようにしよう。娘達も賛成してみんなの気持が揃った時、たまたまの用事で電話をした里親会事務局で再委託の可能性を知り、T君をはじめみなで大喜びしました。担当ワーカーさんと相談してT君の再度の家出先を児童相談所に

することに決め、T君はそのとおりに行動しました。

秋に 私達の家に戻り「この家が僕にとってどんなに良い処だったか出でてみて判った。あんなに頑固にみんなと仲良くやれなかった理由が今では全々判らない」と言いました。T君の言葉を里親冥利につける思いで嬉しく心に留めたのを記憶しています。彼はその後大学進学のために東京に出へ卒業後も社会人としてはや8年。最近は憧れの結婚に向けて準備に余念のない日々です。今は末永く見守り続ける間柄でいられればと願っています。私達はそれから3人目のお子さんを預かり現在も奮闘中です。